



みやぎ

- 32号 -

発行元 独立行政法人国立病院機構 宮城病院  
 発行責任者 清野 仁  
 〒989-2202 宮城県亶理郡山元町高瀬字合戦原100番地  
 TEL 0223-37-1131 FAX 0223-37-3316  
 ホームページ <http://www.mnh.go.jp/>

●●基本理念●●

良い医療を安全に、心を込めて

平成24年度のスタートにあたって

院長 清野 仁

例年になく長かった冬にもようやく終止符が打たれ、山元町にも、一年前とは違う穏やかな春が訪れた。今年は、陽光も一層眩しく輝き、鶯の鳴き音も一段と力強く感ぜられ、昨年は味わうことのできなかったこの季節を、大いに満喫したいものだと思っている。

この時期は、四季の中でも、卒業や入学などの行事と相まって、別れや新しい出会いなど、様々な感情が交錯する季節でもある。

当院においても3月31日付けで、43名もの方々が、退職や異動で病院を去られた。昨年の大震災をともに乗り越えた多くの仲間を一度に失うこととなり、より一層の寂しさを感じると同時に、大いに傷手となった。長い間、宮城病院のためにご尽力いただいたことに、あらためて感謝を申し上げたいと思う。

一方、4月に入り、新規採用や人事異動などで多くの新しい仲間を迎え入れることができた。卒業したばかりの新社会人も、一週間の新人研修を難なく終え、その澁刺とした姿には、大いに当院を活性化してくれるものと期待したい。また、今年度は、新たに事務部長、看護部長、管理課長の3人の幹部職員を迎え、この新体制で、自立支援法の改正への対応や2年後に控えた国立病院機構の新法人への移行など、山積する多くの課題に取り組み、乗り越えていきたいと考えている。

当院の経営については震災以降、大きく落ち込んでいたが、昨年11月末には、経常収支率が累計で当初計画を上回るまで回復することができた。これは、震災の被害を受けながら、地域住民のため、安全かつ信頼される医療の提供のため、職員全員が一丸となって復旧に取り組んだ成果の賜物と考えており、改めて心から感謝を申し上げたい。

東日本大震災の発生から、早、一年あまりが経過し、町の復興計画も徐々にではあるが、着実に歩みを進め、傷んだ道路の修復や地場産業であるイチゴ生産の再開など、復興の槌音が響き始めている。まさに復旧ではなく、震災前にも増して、活気のある、豊かな町にならなければならないものと考えている。

その中でも、当院は医療福祉ゾーンを中心と位置づけられ、地域医療における中心的な役割を担うこととなり、今後、ますますその存在の重要性が高まっていくことが予測される。

当院の医療が、住民の生活に密着し、町の復興・地域の発展に大きく寄与するためにも、引き続き住民に「安全で心を込めた良い医療」を提供していきたいと考えている。



前列左より：村上事務部長、安藤統括診療部長、青山看護部長、清野院長、久永副院長、伊藤臨床研究部長  
 後列左より：大泉管理課長、長澤経営企画室長、大竹副看護部長、藤原企画課長、熊谷薬剤科長



## 栄養管理室から患者さまに満足していただけるために ～有料特別室利用者への「VIP食」の提供～

当院では、患者さまへのサービス向上を目指し、有料の特室向け『VIP食』の提供を始めました。

今回は3月に、有料特室で常食を喫食されている患者さま限定で、毎週水曜日の夕食時に『VIP食』を試行として提供させていただきました。この第一段階の試行結果をもとに患者さまのご意見を参考にして第2、第3段階と進めていきたいと“栄養部門一丸”となっております。

第1回目の試行では、入院患者さまから  
旅館やホテルのように良かった。

病院生活でVIP食を楽しみに「明日だね!」「今日だね!」「次だね!」と希望の会話を主人とする事が出来ました。

原価は大丈夫なんでしょうか?

等々、大変ありがたく、貴重なご意見を頂くことができました。検食担当医師からも「病院食として、びっくりする程豪華な夕食でした」との評価もいただくことができました。また、今回の取組みにより、調理師魂にも火が付いたように感じます。

患者さまから「病院食」に対するイメージを払拭し、「VIP食」を楽しみに入院生活を送っていただけるよう、今後益々努力していきたいと思案しているところです。是非!期待してくださいね

ちなみに今回のメニューは、鯛めし、穴子のひつまぶし、などなど。。器や添え書きも工夫を凝らしてみました。

次回の「VIP食」の報告をお楽しみに!

(栄養管理室長 篠島 良介)



3月7日  
桜鯛めし



3月14日  
穴子ひつまぶし



## 国立病院機構鈴鹿病院とWeb講演会を実施

-大震災時の宮城病院の状況と日頃の備え-



大震災から1年が経過しました。当時の傷跡は、いまだ行き場のない瓦礫とともに私たちの心に深く刻まれています。そんな中、去る1月27日(金)当院と国立病院機構鈴鹿病院の間でWeb会議システムを使った講演会が開催されました。本講演は、昨年10月に鈴鹿病院の小長谷先生から、宮城病院での震災対応を病院で話してほしいとの依頼があり、企画されたものです。今井診療部長とALSケアセンター椿井MSWが出張した鈴鹿病院と当院の管理棟治験管理室と病棟の3地点をWebで結び講演会を実施しました。冒頭、当院清野院長と小長谷先生とのWebカメラを通じた挨拶で始まり、

安藤統括診療部長から被災時の当院の対応全般について話がありました。

次に入院中のALS患者岩松修さんの、パソコンの意思伝達装置を使った発表へと続き、被災直後の自衛隊ヘリによる新潟病院転院時の不安と、葛藤そしてパソコンによる転院先でのコミュニケーションの確立等が発表され「与えられた命をこれからも大切に生きていく」と力強い言葉で結ばれました。同席の武部師長から、日頃から在宅療養に備える考えが原点にあり、震災時にも役立ったというコメントがありました。



最後に鈴鹿病院会場で今井診療部長がALSケアセンターにおける【自律】を育むチームアプローチの経験を講演し、患者自らが社会の一員として主体的に生きることを心がけるための支援であり、「日頃の備え、治療、ケアを同じ方向に向かって行ってきたことが今回の震災にも役立ったのでは」と結びました。

当院会場からも、鈴鹿病院の会場の様子をWebを通してみることができ、当院の経験を熱心に見入って参加している鈴鹿病院職員の方々の姿は印象的でした。

(ALSケアセンター 山本 剛司)



# 防災訓練を実施

平成24年3月5日(月) 昨年の震災から1年を過ぎようとしていたこの日、宮城病院で初めての**大津波警報**の発表を想定とする防災訓練を実施しました。

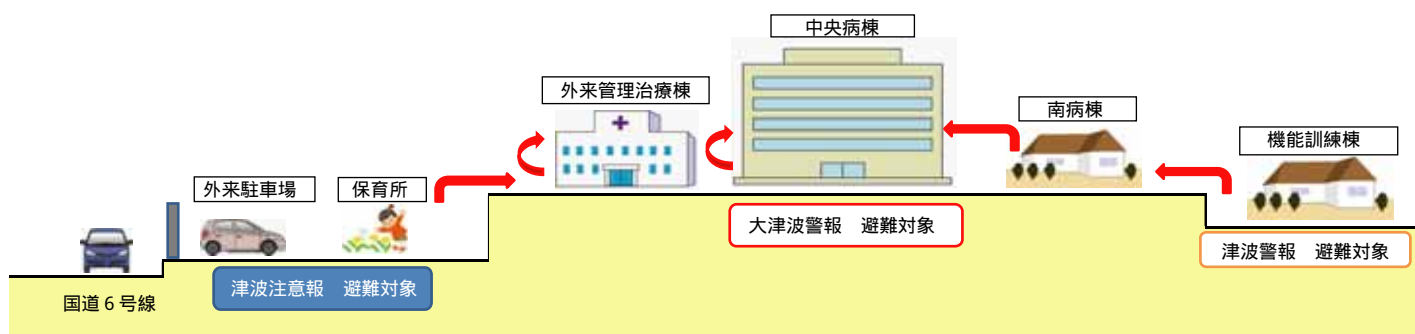
昨年の震災における津波の到達点は、一部で国道6号線の西側に及ぶ広範囲のもので山元町に大きな被害をもたらしましたが、**海拔2.4m**という当院の立地条件により、**浸水には到りませんでした。**

しかし、今後も各方面で予想されている地震の発生に備えるには、津波を想定した災害対策が不可欠であるため、今回の防災訓練では、気象庁が発表する各津波警報に対応した「**宮城病院 津波警報避難基準**」を作成し、地震発生とこれに伴う津波を想定した訓練となりました。

気象庁が発表する津波警報は、0.5m程度の津波を想定した「**津波注意報**」から2m~3m程度の「**津波警報**」、3m~10m以上の「**大津波警報**」まで全部で3段階に分かれています。今回作成した避難基準では当院の建物をその建築場所にあわせて高・中・低の3段階に分け、それぞれの段階と津波警報の種類を関連づけ、津波警報が発表された場合における避難場所を定めています。

当日の訓練では手順の確認を主とした訓練でしたので、避難完了までに15分程度というものでしたが、被害情報や安否確認を集約する上での様々な問題点があらためて浮き彫りとなり、防災対策に対する更なる検討が必要となっています。今後も各部署と連携して、引き続き、防災体制の整備に取り組んでいきたいと思っております。

(庶務班長 増田 和美)



## 宮城病院 津波警報避難基準図

紹介医療機関 (3月末日現在) ご紹介ありがとうございます。

- ・ 公立相馬総合病院 (73件)
- ・ 相馬中央病院(66件)
- ・ 仙台厚生病院(49件)
- ・ やべ内科クリニック(39件)
- ・ 三浦クリニック(38件)
- ・ 松村クリニック(68件)
- ・ 平田外科医院(59件)
- ・ 宮城県立がんセンター(45件)
- ・ 南東北病院(38件)
- ・ 浜通りふれあい診療所(34件)

上位10医療機関のほか、県内外199医療機関からご紹介いただいております。

# 診療案内

平成24年4月1日現在

診療科別		月	火	水	木	金
内科		清野 仁	清野 仁		清野 仁	清野 仁
		志澤 聡一郎	志澤 聡一郎	志澤 聡一郎	志澤 聡一郎	志澤 聡一郎
						仙台医療センター医師
神経内科	新患	伊藤 博明	久永 欣哉	久永 欣哉	大隅 悦子	松本 有史
	再来	今井 尚志	今井 尚志	松本 有史	久永 欣哉	
呼吸器科			芦野 有悟			
消化器科				県立がんセンター (13:30~15:30)		
循環器科		星 信夫	星 信夫	星 信夫	星 信夫	星 信夫
アレルギー科		堀川 雅浩	大島 武子	堀川 雅浩	大島 武子	堀川 雅浩
小児科	午前	堀川 雅浩	大島 武子	堀川 雅浩	大島 武子	堀川 雅浩
	午後		小児アレルギー (堀川 雅浩)	(第1・3)乳児健診	療育相談 (大島 武子)	
整形外科						県立がんセンター (13:30~15:30)
形成外科						澤村 武 梅山 広勝 隔週交代 (13:30~15:30)
脳神経外科		永松 謙一	安藤 肇史	仁村 太郎	手術日	安藤 肇史
皮膚科					東北大(第4木)	
リハビリテーション科	新患				大隅 悦子 (14:00~15:00)	
	再来	齋藤 佐	齋藤 佐	齋藤 佐	齋藤 佐	齋藤 佐
放射線科(画像診断)				齋藤 美穂子		
歯科		中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子	中原 寛子
専門外来	パーキンソン病外来	伊藤 博明	久永 欣哉	久永 欣哉	大隅 悦子	松本 有史
	ALS外来			今井 尚志	今井 尚志	
	もの忘れ外来			平岡 宏太良		
	漢方外来	志澤 聡一郎			志澤 聡一郎	
	頭痛外来	伊藤 博明	久永 欣哉	久永 欣哉	大隅 悦子	松本 有史

## 受診される方へ

受付時間は8:30~11:00です。

土曜日・日曜日・祝日・休日及び年末年始(12月29日~1月3日)は休診です。

ただし、救急の方は随時受け付けいたします。

お問い合わせ先 0223-37-1131

初めて当院を受診される方は、他の医療機関からの紹介状をお持ちください。紹介状がなくとも受診はできますが、その場合初診時に2,625円を負担していただくこととなりますので予めご了承ください。

## 交通のご案内

自動車でおいでの方

仙台方面から

仙台市中心部から南へ約40km、国道4号線と6号線の分岐点から南へ約20km、国道6号線314.5kmポイント(標識)が目印です。高速道路ご利用の場合、常磐自動車道山元ICで降り、国道6号線を相馬方面へ南下。山元ICから約5km。

相馬方面から

国道6号線を仙台方面に向かい、宮城・福島県境から約10分です。

交通機関をご利用の方

仙台方面から

JR常磐線巨理駅下車、タクシーまたはJR代行バス(詳しくはお問い合わせください。)

